WASON
HQ
1104
J74+

1888
no. 132

The Woman's Magazine.

女學雜誌

版權所有

一册五錢

各土曜日出版

當府内無郵税

明治廿一年 （第百參拾貳號） 十月二十日發

社説
當今女子教育者の胸臆

論説
女學生論（星野光多）
我姉妹に送る（田邨武治）

批評
洋服案の討議、机上に置くべし○眞美人○向日葵○山田美妙大人の小説

叢話
婦人衛生一斑（櫻井郁二郎）○白痴教育の事○賢女の德○百人一首一口話

小説
折女の卷○さすがに双紙

佳傳
村好娘、ドラの一生

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1104
J74+

Set .0
1888
no 132

The Woman's Magazine.

女學雜誌

版權所有　一冊五錢

各土曜日出版　當府内無郵稅

明治廿一年　（第百參拾貳號）　十二月十日發

社説
當今女子教育者の胸臆

論説
女學生論（星野光多）我姉妹に送る（田邨武治）

批評
洋服案の針議、机上に置くべし○眞美人○照日葵○山田美妙大人の小說

叢話
婦人衛生一斑（櫻井郁二郎）○白痴教育の事○賢女の鑑○百人一首一口話

小說
折女の卷○さすがに双紙

佳傳
村好娘、ドラの一生

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 132. October 20th, 1888.

EDITORIAL:— The Spirit of Modern Education of Girls.

LEADING ARTICLES:— On Girl-students, by Mr. K. Hoshino. To My Sisters, by Mr. T. Tamura.

CRITICAL NOTES:— "A Truce to the Dress-question." "The Beauty" "Mr Yamada's Novels"

MISCELLANIES:— "Hygiene for Women." "Education of Idiots." "The Virtues of a Wise Woman."

NOVELS:— "Tetsujo no Maki." "Sasugani."

BIOGRAPHIES:— Dora, by Tennyson.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

婦人會員の會讀及
內の婦學に適せり

蓋し最良の教科書

通信女學 第拾三卷 發兌

十月廿日出版せり

一冊 枚數七十頁 定價廿錢 全國無郵稅

●珊瑚の珠 (第八十二回)

神功皇后　　白井篤治

英才雄畧女中龍。征伐三韓屬日東。神武以還論偉績。

不如皇后運壽工。

橘姬　　高橋古溪

非有賢妃棄一身。爭教神將淨胡塵。廟堂若賞東征績。

只合首功推此人。

紫式部　　日柳々東

幻如蜃氣麗如雲。寫出風情水性人。却是自家心鉄石。

孤燈守盡十年春。

清少納言　　水野龍松

起卷玉簾山雪寒。香山隻句奉君歡。謝家女讓清家女。

只作春風柳絮看。

清分道人

蝶與莊周孰是眞。料知蝶亦夢爲人。徒論眞假恐妨夢。

夢穩華胥國裡春。

玩初月　　河口枕河

無復浮雲一片垂。樓頭新月細如眉。賞秋正自今宵始。

恰似好書開卷時。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百三十貳號　明治二十一年十月二十日發兌

社説

○當今女子教育者の胸臆

日本國現時の政治社界を觀れば、勢力の運動いよ〳〵繁劇を極む。後へを顧みれば藩閥の習弊漸やく分裂し、自由敢爲の生氣ます〳〵公衆に備滿せんとす。又た前途を望めば、帝國議會の建設は正に二年の間に迫り、古來比類なき新制度の行われて、上下一堂よ是非を辨ずるの機近きに在り。若し夫れ壯年活潑の氣慨を懷き、才學非凡大ひに爲す有るの膽力を有する者にして、試みに眼を放つて斯の如き政治社界を觀れば、其の奮激する所ろ素より多かるべき也。

更に又た、現時の文學社界を觀れば、和漢洋の文質混沌として雜合し、未だ非常の詩人文章家を出すに至らず。偶ま胡蝶の翼を揮つて多少の飛揚を試むるものを見れば、多くは是れ輕薄陋猥にして剛潔絶倫の質あるもの極めて尠なし。故に魂しひ烈火の如く活き、道念火柱の如く天に達し、正氣凜々、情緒温々として、超然此間に歌ひ且つ論ずるもの、殆んど未だ之あらずと云ふべし。天稟拔群の書生にして此の如き文學社界を見る、其の奮激する所亦素より多かるべき也。

然れども暫らく功名の念を斷ち、冷然として高く脫俗し、密に前代の歴史に鑑がみ、更らに細かに日本現時の社況に慮みれば、凡そ今の大ひに爲す有るの地は、決して政治文學の社會にあらず、更らに一種の別世界あることを確認すべし」。抑も平氏の權力を源家に移し、朝たに奇智權謀を運らして、夕べよ興敗起伏するは、一言するに是れ權力の餓鬼の如し。好し假に公明正大の大豪傑ありとし、彼れ自ら萬民自由の代表者と爲り、一身に正義の興望を集めて、斷乎として政治社會の空氣を淸掃せんとす、是れ實に吾人が愛友とする所ろのもの也。然れども此の如き大豪傑をして能く其の志を成さしむるものは、敢て只豪傑彼自身の才力に由れりとはせず、更に他の無數ある義人の援助なくんば能はざる也」。或は又た、一篇の小説舶來の紙價を高くし、數回の再版速に新聞紙上の評判に預かりたりとも、若くは一首の詩剛珍我樂多の風流才子を腦殺し、天下の浮薄男女之を傳唱するに至りたりとも、斯る詩文の作者を以て得意とするは、恰かも是れ評判の乞食の如し。好し假に脫俗高潔の大學者ありとし、彼れ自から天と地と人性との代言者となり、一身に正義粹美の徳を集めて、而してエン

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

シエルの如く吟じ、大聖人の如く論ずるあらば、是れ實に吾人が愛友とする所のもの也。然れども如此き大學者の詩文は、必しも敢て自ら能く活動するものにあらず、蓋し之が友人あり其活氣を吹込み、直接に其生たる感化を與ふるにあらずんば、人の之が爲めに益すると甚だ少かるべし」。此に至つて、吾人は敎育の甚はだ切要なるを知れり、而して今の時勢に鑑み、更に今の敎育社會に鑑みて、現時大有爲の士が其全心全力を敎育に任ずるの、極めて切要なるとを覺悟したり。

昔し、孔子遂に魯に用ひられず、則ち仕を求めずして、書傳禮記を叙し、詩を刪り樂を正す、弟子蓋し三千、身六藝に通ずるもの七十二人ありき。孟子事情に迂濶なりとして用られず、則はち退いて萬章の徒と詩書を序し仲尼の意を述べ、孟子七篇を作る。孔孟の敎之が爲めに今に爛らかにして、東洋三千年の道德敎確立したり」、蓋し、天下皆な攻伐を以て賢なりとし、方に合從連衡を務むるの日に當り、則ち諄々として唐虞三代の德を述るものは、其俗政に用られざる固より必せり。政治海の空氣甚だ純潔ならず、苟くも奇智權謀大ひに行れて、たゞ權力の餓を一時に、飽滿するの策隆んなるに當つては、何如に一二の非凡正大なる政事家ありと云へども其の德功の埋沒さるゝと固より多し。思ふに、啻に春秋戰國に於て孔孟の用ひられざるにあらず、現時十九世紀の文明諸國と云へども、未だ如此き有德なる政事家が其技倆を盡すの地となすゝ足らざる也」。故に吾人は、寧ろ孔孟が四方に周遊したるを奇しむ、其の遂に用ひられずして退いて子弟を敎育したるものは、則ち初めより其の當に爲すべきの處置たりき。吾人孔孟の行ひ遂に此に出でたるを喜ぶと共に、現時大有爲大有德の君子に向つては、其覺悟の亦た當に如此なるべきとを希望せざるを得ず」。嗚呼如何に男子よ、汝等天下の權を握る僅かに三日、端なく倒れて敵復起り、則ち亦た敵を陷いれて自ら代らんとす、人生七十、一起一倒して、遂に蝸牛の爭ひを爲す乎、起きよ眞個の大丈夫、汝等が事業は只だ預言者の瓢たるにある乎、吾人は百年の計たゞ人を樹るに在るとを信ずるもの也。

此故に、凡そ身を敎育に任ずるものは、先づ謹んで人間の魂しひを尊とまざる可らず、而して全身渾べて仁愛に滿ち、腦力甚はだ確固にして、感情又特に深く、言行一致して絕て輕卒虛僞の行ある可らず、此等の德は皆な敎育者ゝ必要の德たり、然れ共吾人が特に茲に明言せんと欲する者は、彼れ敎育者が期望の甚だ遠大ならんとを要するに在也。苟も功を數年の間に

（二）

貪ぼり、只だ人類の賞辭濁世の勳章に戀々するものあらば、如此きは決して敎育者たるに適せざるもの也。彼は少なくとも、期望を二三十年の後に置き、而して百年にして第二代の新民若干を改造し、五百年にして略ぼ國民の氣風を改造するの決心なかる可らず、敎育者にして若し此遠大の期望を懷くの量あくんば、汝ち須らく市に走つて、銖厘の利を爭ふべし、敢て吾人の友とするに足らざる也」。米國白痴敎育者（白痴愚人を敎育して産業に就かしめ一は國家の害元を防ぎ一は國家の利元を開くの敎育たる也）の大家ゼームス、ビー、リチャーツ、嘗て和聖敦の慈善敎訓大會に於て、演白して云く、最後に至つて、余をして一言せしめよ、嗚呼汝ち若し一と度び試み（敎育を）て而して成功せずんば、更らに一度び之を試みよ、再度もし成功せずんば則ち之を一百度若くは更に一百度試むべし、而して尙ほ成功せずんば則ち二百回、三百回、四百回、五百回、之を試むべし、而して尙ほ成功せずんば、汝ち決して失望せざれ、則ち更らに一千回又更に一千回之を試むべし。と。嗚呼敎育者の胸臆常に如此くならざる可らず。而して女子敎育に任ずるもの、此の覺悟を要すると、更らに切なり。抑も男生徒は、十餘年の敎育を蒙むつて、恙がなく卒業出校せば、其名すでに轟ろき、一朝にして樞機要地に立つの機會あきにあらず、即はち其の敎育の功績を顯はすと明白にして、爲に師父を喜ばすと尋常ならず。蓋し農夫は其の作物の秀でたるを見て喜こび、園丁は其の花木の盛んなるを見て喜ぶべし、敎育者が其子弟の成業を見て喜ぶの念少しく之に似たり。而して男生徒の成業は多く陽發して天下に明かなるが故に、之に由て敎育者を奬勵鼓舞すると少しとせざる也。然れども、苟くもかゝる鼓舞奬勵によつて初めて敎育の樂しみを知るの敎育者は、未だ決して女子の敎育者たるに適せざるもの也。何んとなれば、女子敎育の尤も正當なる尤も普通ある決果は、敢て陽發せざるにあり、其功寂として人に聞へざるホームの内に沒し、一種の潜勢力となりて良人兒子を溫ため、以つて遙かに國家の大勢力の根基となるに在るが故なり。左れば、其卒業生は、其尤も溫たゝかなる愛を、寧ろ學校の上へに注がずして彼が良人と愛兒との上に注ぐならん、其成りたる所ろの業は、多くは敎師宣敎者たるが爲めに用ひられずして、彼が一家の管理取締の上に用ひらるゝならん、彼が學校に於て練達したる技は、多くは書かざる也、彼が學校に於て練磨したる舌は、多くは辯ぜざる也。天下何

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

處にか某女學校の卒業生ある、蓋し彼等が女生徒たるの資格を全く沒し去るとき、即ち卒業生たるの功を現わして良妻賢母たるを得るの時なり。左らば行く所として卒業したる女生徒あるなし、只だ成業したる賢母良妻を見るに至つて、初めて女子教育者の目的達中したりと云ふべし」。然りと雖ども抑も此如きは、敢て其力を滅したるにあらず、更に其力を潛めたる也、只管に潛めたるにあらず、其强力を撫でゝ敢て之れを壓さへたる也、異日其の反動力を以て森然として反撥し、彼が良人を通し、彼が諸愛子を通して、則ち燦然として天下に陽發するの功を爲すべき也」。之を以て、凡そ教育者が凡べての他の事業家に比較して大に遠大の期望を備へざる可からざるを知らば、更に彼の女子教育者が、凡べての他の教育者に比較して尤も大に遠大の期望なかる可らざるを知るべし。

抑も、孔孟の周遊したるは、其道を天下に行はんが爲め也、君子生きて其道を行ひ、以て德を四民に施くは、蓋し喜び之に過ぎたるはあらず、只夫れ當世の濁俗未だ我が道を實行するに足らざるが故に、敢て先づ大に潛みて其道を子弟の心田に樹ゆる所以なり。而して世に超出するの君子は、大槩ね皆な其の當世に道を實行するの功少なきを知るが故に、則ち多くは皆な教育者として暫らく後世を待つのみ。左れば、大凡ろ有才有德の大教育者は敢て其道を當世に實行せんとするの慨氣を靜め、龍膽時に伏して、異日の大陽發を望む、其望や遠大、其胸臆や廣ろしと云ふべし。此邊の覺悟は、蓋し軟弱なる流行教育者の辨知せざるもの也」。昔しポウロ不世出の才學膽力を懷き、慨然として世民を救ふの念あり、一朝基督の教を信奉してより、其の說く所ろは十字架の道なり、其の辨ずる所ろは奇跡復活の事あり、彼が才學と彼が有爲の膽力とは、未だ嘗て軟弱なる傳教師が覺知せざるの苦痛を感ぜしめたり然れども亦た、彼等が覺知せざる大期望をも感ぜしめたり、則ち曰く、吾は福音を恥とせずと。蓋し、非常の教育者にして初めて亦、吾は教育を恥ぢとせずと云ふを得べし。

Owing to the Condition of Mind, man cannot avoid looking both backward and forward, and comparing past impression.

Darwin.

論說

○女學生論　星野光太

左は星野氏が明治女學校生徒の爲に演述ありたるものゝ筆記なり。蓋し名だたる能辯家の演述と雖ども不完全なる速記は悉く之を示すに足らず。

全躰私は女子の事は至て不案內で御座います、ソレ故婦人懇親會などからたび〳〵演舌の依賴を受けますれども、一々斷ッて居りました。併しながら此の

明治女學校に於て演舌致しますることは、喜んで承諾致しました。其の譯は、當女學校に最も責任の重き嚴本氏は、私が十餘年來の朋友で、情交、歳月と倶に親密なるもので御座りまして、其の嚴本氏が最も愛し、親み、インテレストをおいて、日夜心を用ゐる生徒諸君は、又私の爲めには親しく愛する姉妹方であるのです。故に此の學校に於て、極て不得意なる女子のことに就ての演舌を爲すを、歡んで承諾致した次第です。

又私には妹がありまして、學校に入て居ります。其外橫濱に居る婦人の中にはよき友達が澤山ある。故に女學校は、私の爲めには慰を植へてある花園の如き感覺を持て居ります、世間沙漠の如き事業の間に立て奔走しても、女學校に入て親しめる朋友や、妹に出會ひたる時は、種々の憂悶を開き、世俗の塵を洗ふ事が出きます。故に、別段女學の事に付ては本を讀んだこともなく、深く考へたと云ふことも無いが、只實際の點より志て、愛する自分の妹や、年若き朋友は、今の時に方りて如何に身を處して往かれたならば宜からうと云ふ所から、女學生論と云へる題を心の中に設けて、アチラコチラから實際的の考を併せて、一ツの議論を組立ることとなりました。然し之を專門として居らるゝ嚴本氏もあり、其外直接に氏につきて高尚なお話しを聞かれて居る事だから、定めて私の申すことは陳腐にして、面白くもないでありませうが、只私の心に感じたることですから、聊か之をお話しするのです。

女學生論を三段に分ちて、第一、女學生の幸福。第二、女學生の責任。第三には、體智德の三教育の上に於て、女學生たるべきもの丶方針。此の三段に分ちてお噺しする積りなれど、第三の體育智育德育の事に就ての考は、随分長くありますから、今日は第一第二だけを申します。

第一に、今日の女學生たるものは、實に幸福なるものである、爰にお出でになる女學生方も、亦自ら幸福あるを御承知になられたい。私は、實に此の女生の幸福を慶賀して已みません。

今日は實に女子の羽振りよき時である。二千年來、女子と云ふものは、社會と云ふ舞臺の表面に出ることが出きなくて、窮屈な、不潔な、樂屋の中に居たものであつた。或は舞臺の椽の下に居りし所のものでありし。然るに泰西の學術行はれ、萬般の事物日本に移り來ると共に、女子が男子の足元より、芝居のセリ出し仕懸の如く、段々頭を出して來た、而して、其の腰の處まで出たかと思へバ、最早腰から、手まで出て、肩も首も、遂に全くセリ出しは成就して、男子と共に明治の舞臺に、自由自在に其の技倆を逞うすることが出きる樣になつた。是れは實に幸のことであります。此の幸の時節に、今の女學生の生れたことは、若し偶然であるならば、實に此上なき僥倖のことである、若し又總ての人命を司る神が、此の幸の時代に女學生諸子を生れしめたものとすれば、其の神や實に尊むべきものである、又其の神こそ、生徒諸子の爲めには、感謝すべきものである。女子は決して力らなきものではないデス、從來の女子は耕さゝる所の土地の如きもので、果して好き植物を生じ得べきか、如何ある花園となるべきか、實に女子が實際持て居る所のものを試驗することが出きなかつたのです。然るに今日は、永年の間耕さゝりし畑を、草を除り、鋤を入れ、種を蒔て、之を養ひ培ふの時であるから、必ず案外に好

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

き五穀も得べく、案外に好き花園にもならうと思ひます。今迄日本の婦人は、みな意苦地なし、無氣力、無學なる者のみではありません、只己れの才識を發達し、氣力を進歩せしむることが出きなかつた。然るに今は、女子は總ての事、皆十分發達せしむる事を得るの時運となつたものである。二三十年の昔しなれば正に耗りてしまうべきものが、今日ハ之を耕して、得らるゝだけの力を發達せしむるを得る塲合となつた。是れ實に女子の爲めに、最も慶ぶべきことであらうと思ふ。無いものなら仕方が無いが、有るものを出すことが出きん、養へば出きるものを養ふことが出きんと云ふは、實に殘念なる世の中であつたのだが、今日は何程でも養ふことが出き、發達せしむることが出きると云ふは、誠に女子たるものゝ、千歳一遇の幸福であらうと思ひます。

此の幸の時に及んで、隨分志のある婦人方も御座りませう。斯く女子の羽振りの能き時は、我も學校に通ふて、何か功名をしやうと思ふても、モウ四五年前に人に嫁して、子供も出き、奈何ともすることが出きんとか。或は是から就學して、何か事業をしやうと云ふ、盛んなる志は十分にあるけれども、思ふ樣に學資が無いとか。或は種々なる親族の事情に妨げられ此の幸の時機を流れ徃かしむる者もあらう。實に此の人々の爲めにハ、氣の毒の次第であるのです。然るに今日の女學生は、其の間に在て、十分學業に從事し、十分己れの材能を發達することが出きると云ふハ、誠に慶ぶべき事、賀すべき事であらうと思ひます。

昔し、會津の殿樣が、山崎闇齋と云ふ學者に向て、先生に樂みありやと問ふたる時に、答て、私に三ッの樂みがある。第一は、天地の間に生を享るもの何ぞ限らん、禽や獸も皆同じであるが、私は人間に生れたのが樂みである。第二には、此の太平の時節に生れ、思ふ樣に學問を爲し、書を讀んで古の聖人賢人と肱を並べて、談論を思ふ樣にすることが出きるのハ私の幸福である。第三には、身王侯の家に生れずして、賤しき身に居るは、私の幸福であると、會津侯に答へたと云ひます。方今の世に生れ、幸に、女學生として思ふ樣に事に從ふことが出きるのは、女子にとりて尤も歡ぶべく、樂しむべき事であらうと思ひ升。ソレ故、女學生たるものハ、此の幸と云ふことを考て、深く天に向て感謝しなければなるまいと思ひます。（完末）

"*No! I am christian.*" — *John Halifax.*

○我姉妹に送る

田邨武治

田村氏は數年米國に留學し頃日歸朝あり專ら女子教育及幼稚園改良の事に盡力せられんとするの士なり今後屢ば其文を投ぜらるべきに付き今之を讀者に紹介す。

余は姉妹と同じく日本國に生れて茲に二十四年常に自ら怪で曰く我邦の女子は何故未だ西洋女子の如く各自の權利を擴張して男子の奴隷たるを免るゝと能はざる乎其後支那に遊びて女子の有樣を視察するに亦同一の景狀たるを免かれず益以て之を怪むに竊に思ふ孔子の謂ゆる女子と小人とは養ひ難しとは實に萬古不朽の定律なる乎と既にして笈を米國に負ふに及て講習の餘暇常に社會の形勢を觀察し遂に女子の力は大に同國文明の進歩に與て顯著なるものあるを悟り多年の疑團は一朝氷解し快然手を拍て曰く惜哉孔子をして今日歐米の間に生れしめざるをと。

蓋し邦國が完全なる文明に達するや事物に甚しき偏長なく虚實常に相平均するの傾を生ずるものなり故に學理獨り進で工業擧らず奢靡獨り長して實力之に隨はず智者獨り驕て愚者常に制せられ男子は恣にして女子は壓せらる如きは殆んど野蠻社會の遺風にして眞成なる文明の基礎を定るの道に非ず然れども古來東洋の風習として女子を以て敎ふべからざるものとなし一樣之を蔑視せるとは疑ふべからざるの事實にして而も亦西洋各國の文化に遅れたるの一大原因なりしと謂はざる可からざるなり抑も文明なる語は啻に政事文學上にのみ顯はれたる國家の現象を品評したるものに非ずして實に其國民が一個人として備へたる獨立自治の精神に就て暫く其强弱の度を裁定せしものなれば一國中の人民よして苟も男女の名稱を異にすればとて其權利自由に迄雲泥の差を生ずるは誤謬も亦甚しきものと謂へし去れは西洋各國に行はるゝ女子教育の周到緻密なるものより之を視れば彼の女子は愛に生れ我の女子は懼に生れたるものと言ふも敢て謬言に非ざるべし悲かな敎ゆべきの質あるものを敎へずして唯に敎へ難しと見認し女子をして敢て其天賦を廢棄せしむるに至らしめしは噫亦誰が罪ぞや吾輩は宜しく日本女子に對して多年の罪を謝し是より相互に誘掖奬勵して眞成なる文明の基礎を築くの用意に取掛るべきなり然れども今自ら謭陋を顧みず一身を擲て我姉妹の地位を高め偏なく黨なく有用の器を養ひ以て我邦の文明を完全ならしむるの大任を分たんとするに當て先づ其恐懼戒愼せざるべからざるものあるを語り以て我姉妹の指敎を乞はんとす。

先づ米國の婦人に就て概論せんに其敎育は先づ中等に位する

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もの丶如し何となれば上下隨分差異あるを覺ゆればなり充分なる敎育ある人は論ずるまでもなきとなるが其他に至りては平常の言行動作其無智輕佻の跡なしとせず然れども一般男子が女子を敬愛するの美風あれば之が爲め蔽はれて其醜を著はさず以て僅に其體面を保つもの丶如し加ふるに基督敎の勢力は十分社會を支配して無智の輩まで自然其感化を受け爲に頗る輿論を畏るゝの念を生じ務て溫柔慈愛の德を裝飾するの傾あり以上の二者即ち基督敎の感化力及び男子敬愛の意なかりせば米婦の中等以下に屬するもの決して其地位を今日に保續すると能はざりしあるべし

蓋し女子の弱點は剛毅の質に乏しく動もすれば感情に迷倒されて他人の待遇に甘じ自ら顧て內に疚しきものなきや否を試驗すると稀にして兎角衿誇豪慢の恣態を生ずると是なり中大學を卒るものと雖とも間々淺見浮薄のものありて自家境遇の如何を忘れ或は何故に男子が己れに敬愛の意を表するやを知らず啻に豪然自ら許すのみならず寧ろ甘言以て男子を籠絡驅使せんとするの趣なしとせず畢竟女子の智に短きものを措くに隆渥の地を以てせば斯る弊害を生じて婦德を損ふは自然の理あるべし去れば之を救ふは唯女子をして眞成に其地位の高低責任の大小及び學術の正用を知らしめ之を總るに敬神愛人の德を以てするの外別に良策なきとなるべし試に思へ歐米開明國の男子が婦人を敬愛優待する所以のものを是決て痴情より發するものに非ず亦禮節もなく相親むものにも非ず必ずや一定の道理より來りたるものあり蓋し女子なるものは生理上柔軟にして常に男子が剛健の助を要すべきと又心理上の發育に至りても頗る男子の活潑なるに若ざるの傾向あれば棄て之を顧ざれば素より他の壓抑を免るべきにあらず去れば玆に愛の一字より扶弱と云ふ枝葉を生じ之に由りて全社會の風習を馴致せしものなるべし故に男子が婦人を敬愛するの意は寧ろ强者の壓制と不理の羈絆より脫せしめ共に人生の幸福を全ふせんとするに在り去れば女子たるものも宜しく其由て來る所を考へ能く自ら其性質を覈査し果して自家の軟弱なる男子の助を要するべきものなるを認めし以上は素より男子が敬愛の意に容る丈の揖讓謙退の德なかるべからず若し否ずして徒に男子敬愛の意に狎れて自家の分限を忘れ豪慢不遜の態を生ずると米婦の敎育に乏しきもの丶如きは豈に女子にして大に羞づべきとに非ずや　(未完)

稷狐は攻められず社狐は燻されず

批評

○洋服案の討議、机上に置くべし　みどり

被告渡邊飛、原告いらつめ記者の間だに係る訴訟を、某一寸と差出て一評いたし、幸にして女學雜誌第百二十八號に掲載せられたる處ろ、去十五日發兌のいらつめ第十六號には、合計一百六十五行の長文を以て、江河の決したる如くに反撃せられたり、之と同時に女學記者よりお叱りを蒙り、

貴樣が語らぬ事を言ふて、此方の意見と思ひ違へられたればこそ、此樣に長う書かれたのだ、實にお氣の毒でならん、貴樣の説と此方の説とは初から違つて居るので、己れは夙く名論を出して置た、モウ彼此言ては成らんぞ、

と叱られたり、夫故今度は最早何んとも申しませぬ、ホンノ一言丈け辨じます。

コルセットや佛蘭西靴を用ゆるような婦人は、今后例令ひ洋服を用ひなくても迚て日本服の上に其類の工夫を致すです、豫じめ考へ置かれたい。

吾兄女學子は決して洋服採用の爲に骨を折る人物でないので、凡そ骨を折ると云ふは人爲に流行を製るのだと始終申して居ります。たゞ〳〵到底洋服になるのだから、先づ實用の門から改め來らするが宜しひ、必要なき婦人は下衣を改良して日本服を着れば宜しひ、上流婦人が洋服を着るは必要であるのだから(踏舞したり、西洋人に笑われたり、又たお上の御訓示に對して必要なのだから)仕方がないと、申し居るので、既に數篇の議論も出ました、私の意見と間違ひなされな。

○眞美人

我樂多文庫硯友社員にして、麻溪居士と號する喜多川金吾氏の新作小説なり、章を分つと僅かに四回、紙數は中版にして八十頁に足らずと雖ども、お目先の變はると實に驚ろく計りなり、而も運命の變轉此上なく、能くも斯く思切つたる調合が出來しとよと、只管ら造化の支配を驚ろくの外なし。文章は、例の言文一致躰にして、美妙齋主人の筆に似、少しく力弱き所ろあり。吳々も硯友社の諸才子に申す、君等が文才實に敬服すべく、又君等が美術に熱心せらるゝと感歎するに餘あり。然れども、凡そ上に大能力あるとを信ぜざるもの丶文章美術は、古來反つて世に有功なると能はざりき、君等が慧眼すでに自然の美を分解的に寫さるゝと至れりと云ふべし、乞ふ更に此自然を一大觀して、之より其の大調和の惣美を感悟せら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るゝに至らんとを。

○照日葵（須藤光暉氏著 春陽堂出版 中本三百四十二頁定價）　盲評生

照日葵を評せんと欲して一讀すれば既に諑天頑仙てふ人の細評ありて他の評をして今更吻を挾むに至ることあたはず。頑仙子の評られ或は妥當ならざる處もあらん、然れども之に就てかくかくの答辯をなし、ことに草稿の急忙なるを以て其疵の多きを輕からしめむとするは著者の爲めに取らざる處なり。けだし咄嗟の作ありと言ひて以て謙遜せしは往時朴訥時代のことなり、今は之に反してその辨解は謙遜を離れて自負の域に入りしに非ずや。著者あとか之を知らざらん。如何にも著者は身繁忙の地位にあるものなり、咄嗟の作ならずといふも誰か之を信ずべき、さるを故さらに咄嗟なりと辨解するは何とやら片腹痛き心地はすなり。流行に從つてその奴隷となるは著者の嫌ひたまふ處に非ずや。咄嗟の作てふ辨解は今の今の流行なり。さるを今更こと〳〵しく……

編者附評。右社友某子の寄評を以て本書の評と爲し了んぬ。吾人もとより此の言に全く服する能はずと雖ども南翠君の小說近時大に著らはれんとするに臨み斯る巻作の物々しく再出するは密かに將軍功成言幼字の憾なき能はず。

天下を動さんと欲する者は先づ自ら動くべし　ソクラット

○山田美妙大人の小說　不知庵主人

「いらつめ」創業の功臣硯友社一方の旗頭美妙齋大人に卒る一流獨得の言文一致躰誰かは大人が矢表にたつべき誰かは大人に弓をばひくべき緋威の鎧に龍頭の冑を被り金覆輪の鞍置きたる連錢足毛の馬よ跨り握太なる重籐の弓を手にし輝く計りの馬れんを先きにノン〳〵と顯へれたるは天晴なる武者振一の谷に平家の膽を冷せし九郎判官も北莊に鬼柴田を嘆息せしめし猿面冠者も何のものかはと狸毛の筆に墨タツプリとふくませて臨々と振たてリツトン、サカレーを馬廻りとなしミルトン、スコツトを謀士となし「ヤア〳〵遠からんものはいらつめを讀め近くは寄て筆さきを見よ」と文學界の戰場に鳴渡る計りの御勢「我こそは」と縱横に手くばりせし武者原も色をば失ひ今辨慶の柿山伏も鈴懸ときんをぬぎて降參すあなすさまじき御手がらあらいさましき殿御振。

おのれは大人が旗下にたつ木の葉武者にて有ぞ陣笠胴服の雜兵にて候ぞ數ならねども敵が矢表にたち主君の爲めに忠義を盡すこそ本務なれ陣鉦大鼓螺貝の音に右へ左へと馳回るこそ職分なれ何とて裏切して味方の機密を洩らすべき何怨みありて御大將をそしるべきマツタ御大將をあげつらふべき六韜三略も諳へず孫吳の秘書も窺はねば謀を本箱の間に廻らし勝つ事を江湖の新聞に期する大人が神機妙算を知るを得べきさは云へ胸にわだかまる疑點は涙てもつるゝ勢なれば言はで止みなんよりはと嗚呼がましくも名乘出で勝負〳〵と大言を吐く事とはなりぬ。

言ふ迄もなく大人は小說改良家の一人なり大人は小說改良の理屈を云ひ給はざれど改良小說の實例を擧げられたり疑ふまでもなく言文一致躰シカモむづかしき我國の文字を縱横にならべられ讀む人はあまりの「スゴサ」「美しさ」にまなこは唯ちらつく計り大人は何等の妙機を蓄へたるや大人は何等の靈筆を持たるゝや鹽屋長治郎にあらずとも五色の烏を丸呑みして白き鳳凰を吐かるゝならんよくもつけられたり美妙齋の名「夏木だち」はと聞かれたら「美妙の作」と答へば足りなんまだお年もお若いに老功の武者原を追ちらしたるはあはれいみじき御手なみにて候ぞ殊におのれが最も敬服せしは大人が作次第に進化されたる事なりされぱとて「風琴調の一ト節」はタドポールなりと申すにはあらずいづれも優り劣りなく美妙の二字よりむかざれどさすがに初陣の事なればいと若々しげに見ゆるも近ごろの「情詩人」にいたりては一分の隙さへもなく「コレ見給へ」と星眼につけられたる時は眞向微塵と振上げたる大刀筋もしどろとなりたゞ後退りをする計りアモ天晴なる御手練とアツト感服仕る石橋の忍月ぬしが日はれた通り天が不公平にて大人の腦髓を小說界の爲めに造られたるものなるが大人が靈活美妙なる筆はアンジエロー雪舟が畵に於けるも同樣未來に到れば李白東坡が見殘した風景ポープ、スコツトが寫しかねた人情を遍く網羅し天巧造化を欺き鬼神慝魄を泣かしむる妙語警句を累々と見ることを得んとおのれは竊かに樂しんでおります。

しかし大人よ聞給へおのれは大人が筆に魅せられし故に大人が作とし聞けば龍頭蛇尾活動せる如く思はずも美なり妙なりと感嘆しあはれ小說界のルーテルよと稱

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

暫く朝顔の美はしきを見るにつけ鏡の如き月の清さをながむるにつけ大人に望まざる事とてはなかりき大人よおのれは大人が天資の筆才に感ぜり大人が特有の嬌癖に驚けり、がおのれとてもちとばかり赤表紙の端をかぢりたり縱令めくらの垣のぞきにもせよ「せめては文學界の食客ともなりたし」の心を以て讀みたる事なればさすがに心に得たる事も茶席の塵ほど蓄へたり八度の眼鏡を用ふるほどなれば千里眼の能とてはなけれどゆかしき留奇南にならず薫れば美はしき君が來るを知るの力は持てりヤヨ美妙齋大人おのれは木の葉武者なりとも馬蹄の塵と見給はで心を留て聞給へ古めかしけれど三ッ子に淺瀨の例へ楠が泣男を用ゐたるためしもあればおのれが如き雜兵の泣言なりとも等閑にしたまひそ。

大人も知らせ給ふ如く我國の小說界は維新以來衰運に陷りしが二三年來改良の風何れよりか吹き來り經國美談となり書生氣質となり假りにも八犬傳を二三册讀み小說神髓を四五枚かぢりたる人は小說を論ぜざるはなく流行の犬となつて未來記を作り政治小說を編む文化文政の頃は申す迄もなくビクトリヤ女皇五十年間の御治世も今日の小說界にはやはか及ばんそも喜ぶべき現象と云ふべきか兎もあれ雷同の二字跋扈する世の中なれば一二の小說聲價高きを致すと瞬時の中に出來星小說家堂々たる新聞社樓上に塵深き下宿屋二階に春草の萌生づるが如く生立ち我も〳〵と筆を取り演說句調に洋語漢語をコテ〳〵とならべ圓機活法から拔出した樣な對句を澤山入れ理屈張つた文章に千篇一律の趣向を鑄き是が改良小說にて候ぞ是が政治小說にて候ぞと云ふヿ到つては傍いたき事ならずや。

むかしの小說は陳腐なり强姦心中道行を以て充滿せりと曰はるれど今の小說も陳腐なり演說捕縛禁獄を以て骨髓となすにあらずや一方より具眼の讀者なしといつばいふものゝ世間の好尚に媚びて其眞相を枉ぐるは小說家の本意なるかイヤサ小說家を以て任ずる人々かく淺はかなる考案を抱いて可なるやおのれとても文學專門のものにもあらずマッタ古今內外の野乘小說をひもときしものならねば生意氣に小說を論ずべくもあらねど今日我國の小說ほど面白からぬはなく世人が陳腐なりと罵る古人の作こそ遙かに優りて霄壤啻ならざる懸隔なり甚しきに到つてはベル子の著の如き乾燥無味なるものを以て唯一小說なりと論ずる文學者も現はれがプリアーの著の如き情致趣味なきものを以て無二の小說と公言する人さへもあるに到れりかく計り混亂錯雜し標準もなく規矩もなく矮人觀戯の奇觀を呈する文學世界なれば作者の身に取りてはおのがじゝ勝手氣儘なりといふものゝ未來に特筆すべき小說一新の大機會にてあれば尋常等閑に世の流行に媚び啻摸倣主義を專らとし一時の喝采を博するは世間デモ作者が所爲のみ美妙齋大人よ大人は八犬傳田舍源氏を三墳五典と心得る徒にはあらじかりにも小說改良家の一人として文學界に臨む上は似而非作者と仝じく世間の流行に媚ぶべからず一時の喝采をむさぼるべからず世間幾多の讀者は大人が天才を欽慕すると同時に大人に望む事多し羨ましき哉大人が天才難い哉大人が地位。

大人よ世間を愚にする勿れ世の中はめくら千人めくら千人なればとて千百の多き中には一二の感能力に富みしものなきとは云はれまじ眼に徹して心に徹せざる瞽錦がともがら群書類從の編者塙保己一がたぐひ必らずなしとは申されまじよしや多數が明盲目なりとて盡く世間を愚にするは大人が爲めに取らざるなり例へば大人が嬌筆は天資なりとも一夜作りの考案にて秀作の出來べしとも覺えず茄子の一夜漬うましと雖も八百善料理には及ばず大人が筆は常に活動せるが故に讀者一時は眩惑すれども仔細に趣を玩味すれば鹽辛きものあり甘すぎたるものあり勿論無味淡泊なる事輕やき然たるものに比すれば寧ろまさらめども鹽辛きは田舍者ヿ適すべく甘すぎたるは下戶連に氣に入るべく決して具眼者料理通の腹を充つ事能はざるなり例へは夏木だちの「玉屋の娘」若くは「仇を恩」の如き大人が筆力を顯はされたるものなるべけれど趣向も淺々しく大人が天賦を以て比すれば牛刀を以て鷄をさく心地すさへ云へおのれとて篇の長短を以て是非するにはあらず如何に淺識なりとも美術の目的は長短大小に關はらざる位の道理は存せり大人が作短かしと雖も若し小說の躰を備へたらんには彼是れ批難すべき廉やある然るヿ疑念なる說おのれが眼くもりし故にや「玉屋の娘」にしろ「仇を恩」にしろ是を說話と云ふべけれど小說の名はさゝげがたくぞ思はるヂッケンスがクリスマスカロルは短篇なり然れども首尾貫徹毫末遺憾なし種彦が諸國物語は各々小說の躰を備へ田舍源氏正本製に劣るべくもあらずかゝればおのれは短篇なりとて大人をなぢるにあらねど大人が著作は例せば夏木だちの諸篇の如き憚りあれども皆小說とは申しがたし大人よ試みにウヰルキーコリンス、ブレドレ等の短篇を取て大人が作に比較せられよ大人が著はスケッチなり以て小說を編むの材料たるべし大人が著は十數篇に上れり然れどもよく夏木だち以外に立つ能はず之より小說の主眼は脚色のみにあらざれば我國從來の小說の如く殊更に奇絕なる會合不思議なる運命を寫すべしと云ふにあらず觀音菩薩の御利生不動明王の妙智力を描くべしと申すにもあらずおのれとても少しは泰西小說をのぞきし事もあれば兒子の奇遇主君の身代寶物の紛失發むすめの身賣等を以て無二の材料と心得るにはあらず馬琴種彦が變幻怪奇の脚色を以て唯一の趣向とは存じ申さずさはとて小說の主眼は唯情致なりと心得長閑なる春模樣を寫すべし物さびたる秋景色を描くべしと單に其風光を筆端に顯はせばとてこは一篇の記文に過ぎず何とて小說なりと申すを得べき小說の主眼は情致なれどもチトの波瀾も照應もなく又少しの脚色だになければ小說とは云ひがたし大人はアービング氏のスケッチブックを見給ひしならんリップバンウヰンクルの幽玄なるスペクターブライドグルームの奇怪なる抑揚頓挫ありて頗る好句妙語に富みしかど小說と申す事は能はじ又大人は江戶繁昌記を讀まれしならん開化新聞の光景頗る壯微をうがちたれども是を小說と申すべきか其他浮世風呂、浮世床、役者評判記の類いづれも情態を穿ちたるは申す迄もなけれど是は小說なりと云へばおのれは首を掉らざるを得ずさりとて大人が著は主人公なしと申すにあらず脚色に乏しと申すにもあらずシカシ大人よ花の咲は小說にて候か柿山伏は小說にて候か大人の御朋輩思案外史ぬしは皷の瀧を八重山吹なりと評されたが大人が著作も

八重山吹なりと云つばさて大人の健筆を以て數の黨の著者に非すべくもあらねど「實のない」と云ふ點に到つては全樣さらに一歩進んで申せば大人が著作は水晶の珠の如く玲瓏として水垂るゝかと疑はるれど唯奇麗だと云ふ計り美術家の尙ぶ風致神韻をほめんとするも得べからず却て不透明なる大理石の斑紋點々として自然の妙味あるに如かず天の成せる小說家文學界の大才子美妙齋大人よおのれは大人に向て五つの車に載せ牛に汗かゝせるほどの大著をば願はず縱令其種類少なくとも偏に秀作の多からん事こそ望まし斯は獨りおのれのみならず大方の讀者が大人に望む所も亦同じからん千百羽の鵜を見んよりは孔雀一羽をながむるを喜ぶはなべての人情にて候大人よおのれは大人が腰巾着にあらねば大人が平生を知らざれども大人が才思を以つて大人が著に比すれば或は一夜作にあらざるかの考なき能はず大人も文壇に立つて脊水陽琴を瞠若せしめんとせらるゝなればさせるかるはづみなる事あるまじけれど若し不幸にしておのれが考察的中せば一ト夜二タ夜の考察をゆめ隆しみ願くは首尾貫徹せる新小說の好摸範を與へよ。

叢話

○婦人衞生一斑（妊娠養生の事）

櫻井郁次郞　演述　佃　與次郞　筆記

右は去月婦人衞生會に於て演說ありたるものゝ筆記なり。

婦人衞生と云ふ事　私は始めて出ましたのでありますが、婦人衞生の一斑と云ふ題に就てお話し申上る譯です。婦人の衞生と申しますと甚だ廣ふ御座います、或は平日の養生法もありませうし、又事は替るが、例へば月經時の養生と云ふ樣なともありませう、又懷妊中の養生、產の時の養生、產後の養生、其外子供を育てまする間の養生法、又月經の終りまする年齡に達したる時の養生と云ふ樣に、甚だ種類は多いが、今日は其一小部分なる、妊娠中の養生と云ふとに就て聊かお話します。

妊娠養生法と云ふ事　畢竟私の申しまする妊娠養生法と云ふのは、公衆の衞生ではない、一人〳〵に就ての衞生です。それ故に規則の樣なものにして、之を何の人にも當嵌めて往くと云ふとは六ヶ敷う御座います、人々平日の習慣、生活の程合、或は身體の出來などが各々違ひますから、之を同じ規則の中にはむるとは頗る困難と思ひまするて、聊か規則からして外れましたる樣なとに就て、一般に必要なる箇條をお話し致します。

妊婦、產婦、蓐婦の文字の事　先づ妊婦と云ふ事に就て一寸其の意味を申しまするると、妊婦とは妊娠の婦人と云ふとで、是は申すまでも無いが併しながら學問上の名義に區別が有ります。能く世間で產婦だの、或は妊婦だの云ふとを間違ひて使つて居ります、妊婦とは、今申した妊娠中の婦人と云ふとであるが、產婦とは、僅か何時間と云ふ時間を定めて產する間だけのとを產婦と申します、又蓐婦と云ふのがある、是れは產をして後、六週間ばかり蓐の上に在る時を云ふのです。能く世間で產婦の見舞と云ふことを申しますが、是れは誤て居る、即ち蓐婦のお見舞と云ふべきです、此等の名義の區別は

あるが、今日は姙婦の養生法に就て申上るので御座います。

姙娠の時日及び其間の養生大切の事　姙娠と云ふ者は何の位の經過を爲すものかと云へば、大凡の極りが、二百八十日であります、其の二百八十日の養生を爰に申しまするのですが、然し只今申しました通り、二百八十日と云ふのは極く大極めて、決して精いとでは無い、其の二百八十日の第一日一番始めは、何にとつたかと云ふに、月經の上ッた當日、夫れより數へるのです。併し月經の上りし日が、懷姙した日と云ふ譯では無い、シテ見れば月經の閉ぢた日より、次の月經までに懷姙したものだから、十日とか二週間とかの日を經過したる、正しく二百六十五日とか二百七十日とかゞ正しいのであります。我人類に於ては、二百八十日と云ふを姙娠の期日と致しますが、動物の種類によりては、非常の違ひがあります。是れは動物學者が色々定めたとだが、姙娠の經過は身體の大さに比較するもので、身躰の大なるものは、其の經過も長いと云ふのは略定りたるとて、象などは動物中最も大なるものであるから六百二十五日と云ふ、シテ見れば二年程も經過を致します。又馬の様なものは、三百四十六日。ズット降ッて犬の様なものなれば、六十日。猫の様なものは五十六日と云ふ様に、追々動物の大さによりて比較して居ります。只今も申しましたる通り、我人類の經過と云ふものは、大略二百八十日と定めて置きまして、其の間に種々のとが起る、是れを或は衛生法に基て防ぐとが出き或は又不十分なるとは補ふて行くとも出きます。又二百八十日間に衛生の法を得れば、壯健なる小供を生むとも出き、又分娩の際に安易に產するとも出きます。從て產後の日立ちも容易く、惡しき病氣を引起さずに往くとが出きます。シテ見れば二百八十日間に十分の養生法を行へば、親も子も宜しき成績を擧るとが出きるのですから、是非如何なるお方でも養生と云ふとに注目しなければならんと思ひます。（不完）

○白痴敎育の事

歐米に於ては、近年白痴敎育と申すもの次第に行はれ、地方稅若くは有志者の寄附金によりて其向の學校を開き、多くの白痴小僧を集めて敎育するなり。之に付ては、最と感ずべき話しの甚はだ多き中に、彼のゼームス、ビー、リッチャーヅと云へる米國の熱心家が、シルベーナスと云へる一人の極めて愚鈍なる子供を敎へたる經驗は、特に尤も感歎すべきとに思はる。同氏云く、

余が敎育したる白痴多くあれども、今ま先づ其の一人の實例を話すべし。玆にシルベーナスと云へる八年六ケ月の子供あり、生れてより未だ一度も笑ひしとなく、其母をすら見覺へざるほどなり、眼前に光を見すれども絶へて瞬たきせず、身躰も亦た自由に動かず、兩足は特に引つり居れり、皮膚は感じなく、凡そ苦痛と云へるとを少しも悟らざる樣なり。余が初めて此兒を見たるときは、赤きフランチルにて包まれ、床の上に横はらせてあり、彼れ毫も動かず、何をもせず、殆んど赤子の如くなりき。

余は之を我敎育所に連來り、或は抱き、或は食物を與へ、或は摩り、或は浴みせしめなどして、初め一ケ月ほどは只だ其樣子に注意したり。抑も何如にして之が敎育に着手せんと思ひ煩らふ折から、或時偶と賢母が其子に敎ゆるの有樣を見たり、蓋は母親が二階に在つて何か仕事しつゝある時、其子は下に在りて惡くも母の命に反きたり、母は之を見て例の如く二階より大聲に叫び「何故此餓鬼はソンナ口答をする聞やしないぞ」などとは言はず、此母先づ靜かに二階より降り來り、彼の子の居る所に至りて、涙を浮めたる兩眼にて眞直に子供の眼こを見つめ、

「コレ坊よお前は其は惡いことだと知らないのかエと敎へたれば、前に頑くなに見へたる彼子は直ちに泣出して母にすがり、其許しを乞ひたり。余は此有樣をつく〴〵と見て、余もし彼の兒を敎育せんとせば、余も亦た余が地位を降りて彼の子供と同等に立ち、之と對等になりて愛育せでは適う可らずと心附き。之れよりして毎日一時間と定め、彼のシルベーナスの傍らに行て書物を讀きかせたり、之は母親が其子に面白き昔しばなしを聞かせ、其の愛の語ばによりて段々に子供の腦力を發達せしむるとに思當り、偶と考へ附いたる敎育法にてあるなり、而して此の書物を讀むには、決して之を愚鈍なるシルベーナスに計り讀み聞かするとは思ハず、極めて鄭寧に發音を正して、尤も明瞭に且つ面白く朗讀したり。斯て三ケ月が間だは一日一時間づゝ始終よみ聞かせて、或る一日試みの爲め平常の座につかず、余は遙かにシルベーナスより離れ、而も彼方を向いて獨り小き聲にて讀みたるに、シルベーナスは何やらん甚はだ不滿足の躰にて切りに躰だを動かす、ヲー彼は余を要するよと心うれしく、急ぎ近づいて

シルベーナスよ、余は玆に在るぞ、常もの如く讀みて欲

しきかと問かけたれば、「アー」と云へる最と微かなる息氣を吹出したり、之れぞシルベーナスが生れてより初めての發音なりしなり。

余は少か勇氣を得て、更に二三ヶ月同じ樣にして讀み聞かせ、扨て或る日亦た特更に讀まざりければ、シルベーナスは前よりも一層に悶ゆる樣にてあり、何やらん切りに手をもぢ〱としたるが、漸やくに其の右の手を擧て指を余が口に着けたり、嗚呼謝すべき哉、彼れいよ〱欲望の心を起したり。斯て尙ほ止まず、日に日に讀み聞かせたるに、一日彼れ初めて笑ひたり、此の時の笑顏ぞ即はち彼れが生れてより初めての笑ひなりしなり。

斯て段々と時の立つに隨ひ、今まは之を所々に動かし見るに、彼れ甚はだ愉快なるが如し。遂に一年半目に至りて、初めて之に匍匐とを敎へたり。此時余は、彼が躰を少こし伸ばさせ、手と膝とを下ろして、通常の子供がハウ時の位置に置たるに、彼れ甚はだ滿足して見へたり、由て余は聲をかけ乍ら、段々に之を動かし、

ソレ此の手を動かしてソウジヤ〱。ソレ此方の手を動かしてヨイ子ジヤ〱。ソレ此の足を動かしてソウジヤ〱。ソレ此方の足を動かしてヨイ子ジヤ〱。

と、例の母親が一年未滿の子に敎ゆる如く、此の滿十歲のシルベーナスに敎へたり。斯て數ヶ月の間だは、日々此の匍匐ことを敎へたるところ、遂には彼れ自身のみにてハウやうになれり。其上、彼れ何やらん口を動かすようなれば、密かに近づいて耳を當てゝ聞けば、シルベーナスは匍匐ひ乍ら極めて小さき聲にて、

ソレ此の手を動かしてソウジヤ〱。ソレ此方の手を動かして好い子ジヤ〱……

嗚呼蠢爾たりきシルベーナスは、既に動き出せり、匍匐出せり、而も正音の言語を發するに至れり。（未完）。

○女學古文

賢女の德

（ソロモン箴言第卅一章）

誰か賢き女を見出すことを得ん、その價は眞珠よりも貴とし、その夫の心はかれを恃み、その產業は乏しくならじ、かれが存命ふる間はその夫に善事をなして惡き事をなさず、彼は羊の毛と麻とを求め、喜びて手から操き、商買の舟のごとく遠き國よりその糧を運び、夜のあけぬ先に起きてその家人に糧

をわたへ、その婢女に日用の分をわたふ、田畝をはかりて之を買ひその手の操作をもて葡萄園を植え、力をもて腰に帶しその手を強くす、彼はその利潤の益あるを知る、その燈火は終夜きえず、かれ手を紡線車にのべ、その指に紡錘をとり、手を貧者にのべ、手を困苦者に舒ぶ、彼は家人の爲に雪をおそれず、蓋その家人みな蕃紅の衣をきればなり、彼はおのれの爲に美しき褥子をつくり、細布と紫とをもてその衣とせり、その夫はその地の長老とともに邑の門に座するによりて人に知らるゝあり、彼は細布の衣を製りこれをうり、帶をつくりて商賈にわたふ、彼は筋力と尊貴とを衣とし且のちの日を笑ふ、彼は口を啓きて智慧をのぶ、仁愛の敎誨その舌にあり、かれはその家の事を鑒み怠惰の糧を食はず、その衆子は起て彼等を祝す、その夫も彼を讃めていふ、賢く事をなす女子は多けれども汝はすべての女子に愈れり、艶麗はいつはりなり美色は呼吸の如し、惟エホバを畏るゝ女は譽られん、その手の操作の果をこれにわたへ、その行爲によりてこれを邑の門にほめよ。

"Favour is deceitful, and beauty is Vain: but a Woman that feareth the Lord, she shall be praised."

Solomon.

○百人一首一口話（十六）

鈴木弘恭講
八木鶴二錄

中納言行平

立わかれいなばの山のみねに生るまつとし聞かば今かへりこむ

此歌は。古今集に題しらずとあります。さていなばの山は濃州の稻葉山なりといふ說もあれど穩ならぬやうです。古今集打聽にもいはれたるが如く。因幡の國の山をたゞいなばの山といへるにて。即ち立別れて往ぬるといふことを因幡にいひかけ。人の待つといふことを松にかけたのであります。いなばは俗にイナウナラといふことゝ。しは助辭にて俗にソレといふことゝ。一首の意は。此度知るべの人々に別れて京都を立出て任國へ下るのであるが。いまわが因幡の國に住うなら親しかりし人々は。やがて任はてゝ歸京する日を待であらうが。果して我を切に待つとソレ聞かうなら任限にかゝはらず今にも歸り來やうとなり。別に隱れたる所なき歌にて。たゞ山といふよりして生る松を待に通はして巧みにつゞけたのです○語格は一段切れの歌にて。指辭なしにこむといふむにて結べるは徒の結びにて切れたる格であります。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

○哲女の卷

（第六回）夢浮橋（上）　月の舍しのぶ

チユー……口惜しや……やみ／＼と汝ちの手にかゝるか、極惡不道の似而非學者人を苦しめ其上に欺むき殺ろす人非人怨恨をヨツク思ひ知れ……おいたわしきはお孃さま、斯る惡人の手に養われ玉うては御身の上も氣遣わし、奴もしも存生せば大旦那のお志ざし必らず御立て申すべきが、何を申すも此の次第ひとへにお許し下さるべし、夫にしても此の惡人、ヤハカ此儘置くべきぞ、引かきてあり腹醫せんと、よろばひ乍ら立ち掛るを、足蹴にハツタと蹴飛しつ、七面倒お死に損ない目、ぐづ／＼言わず觀念しろひ、手前のお蔭で己まで難義だ、切ての口留めに往生させる、ソレ頭まを打こわすから此方を向け、エー此方を向け、向き居らうと言ひ乍ら、ハツシと打つ、サと迸ばしる血もろとも、

アツト叫んで喰ひ附たり、

編かけたる靴足袋を下に置き、屡ば掛念して見顧へりたる少女は、今まや靜かに立そひて、

お父さま……お父さま……モシお父さま……お目が覺ませんか、

モシお父さま

と呼起され、ムツクと反起きて四方を見廻はし、ホツト大息して寢汗を拭ふ、父の顏を眺めて微笑みつゝ、

なにか恐ろしい夢でも御覽なすつたのですか、大層ウナサレテ大きな聲でお呼びなさいましたが、どうなさいましたのですか。

父は尙ほ四方を見廻はし乍ら、偶と枕元に置いたる皿屋敷の草紙に目を留め、カラ／＼と打笑ひ、

道理で、此の草紙のおかげだ、之を讀かけてツイ其儘に眠つたものだから、常に見たともない夢を見た、アヽ馬鹿／＼しいとだ、然し好、なんとか言やあしなかつたか。

イヱ、只だおウナリ遊ばした計りでしたが、何ですか忠七忠七と云つて、たしか二度ほどお呼なさいましたが、夫にしても忠七は如何して居りまするでせう。

サア、何如したろうかナア、私しが丁度此間東京に歸へる前の晩であつたが、大層心配らしい顏附をして旅宿に來たから、段々きくと商買上に大きな損をしたとかデ、首をくゝるか身でも投やうかなどと言ふから、氣の小さいにも程があると叱つて能く勵まして置たが、翌朝出立の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時には來て呉れず、ハテ變だと思ふて居たら、あの晩から見へなくなつたとやら言ふから、大方出奔でもしたらうと思うよ、平生正直な奴だから、餘計に心配をしたのだらう、可愛相だノウ、

斯く睦まし氣に語り合ふ親子は、申す迄もなく秦無極と其の愛孃好子なるべし。無極は彼の日東京を脫して橫濱に逃れ、即日出帆の滊船何號とか云へるに搭じて神戸に着し、直樣西京高志社の女學校に行て、好が爲めに暫時の暇まを請ひ、之を伴なうて翌早朝復た西京を發したり。須磨明石の風景は一幅の畫の如く、淡路一の谷の舊跡は宛ながら古歌を解するに似たれど、心平らかならねば見るもの皆な吾を驚かし、波濤松籟の音も何やらん追手の如く聞えて、夢の如くに三日の陸路を走り、四日の晝過る頃ろ但州城の崎の温泉ゑ着して、望海樓と云へる旅宿に投じ、今しも浴みして稍や打くつろぎたるまどろみに、良心復活して夢を破り反つて痛く心を動かすなるべし。好は左る苦惱の父に在りとは知らず、久し振りにて御傍わらに侍べるとの憘しさに、たゞいそ〳〵として打笑めり、旅中のやどり〳〵にだも寸暇を徒らにせず、父の御足に適やうとて、編初めたる靴足袋も、早や大抵は成就して膝元に在り、

お父さま、一寸とお御足をお出し遊ばせ、大方此れほどと思ひましたが、合ひますか知らん、どうで御座い升。

ヲー私のを編んで呉れたか、夫は有がたひ、どれ〳〵、此は丁度いゝよ、而して毛糸の色も私の好む通りジヤ、ソレにお前は大層編物が上手に爲つたノウ。

イ、エ未だ少つとも進みませんので、ホンノ靴下位ひしか十分には出來ませんので困ります、然し編物などは兎も角どうか早く裁縫を一と通り覺えて、お父さまの折々のお召位ひは私くしが製さへたいと思うんですが、學校の科業が多くて暗誦などに時間がかゝりまして、裁縫の稽古などが少ないもので御座いますから、常までも不器用で……

ソウカ、矢張暗誦などが多いかノウ、どうも夫れは今の女學校の通弊だらう、然しお前などは、學問に骨を折るは善いとで、どこ〳〵迄も勉強しなくてはならんが、又た女の藝と云ふものを怠たつては成らんよ。

ハイ左樣で御座います（と云ひつゝも急に思出して）アノお哲さんは、此頃ろちつとはお直りなさいましたようで

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すか。

時に宿の主人、帳面と硯箱を恭うやしく所持して、謹んで障子をソウット開き、

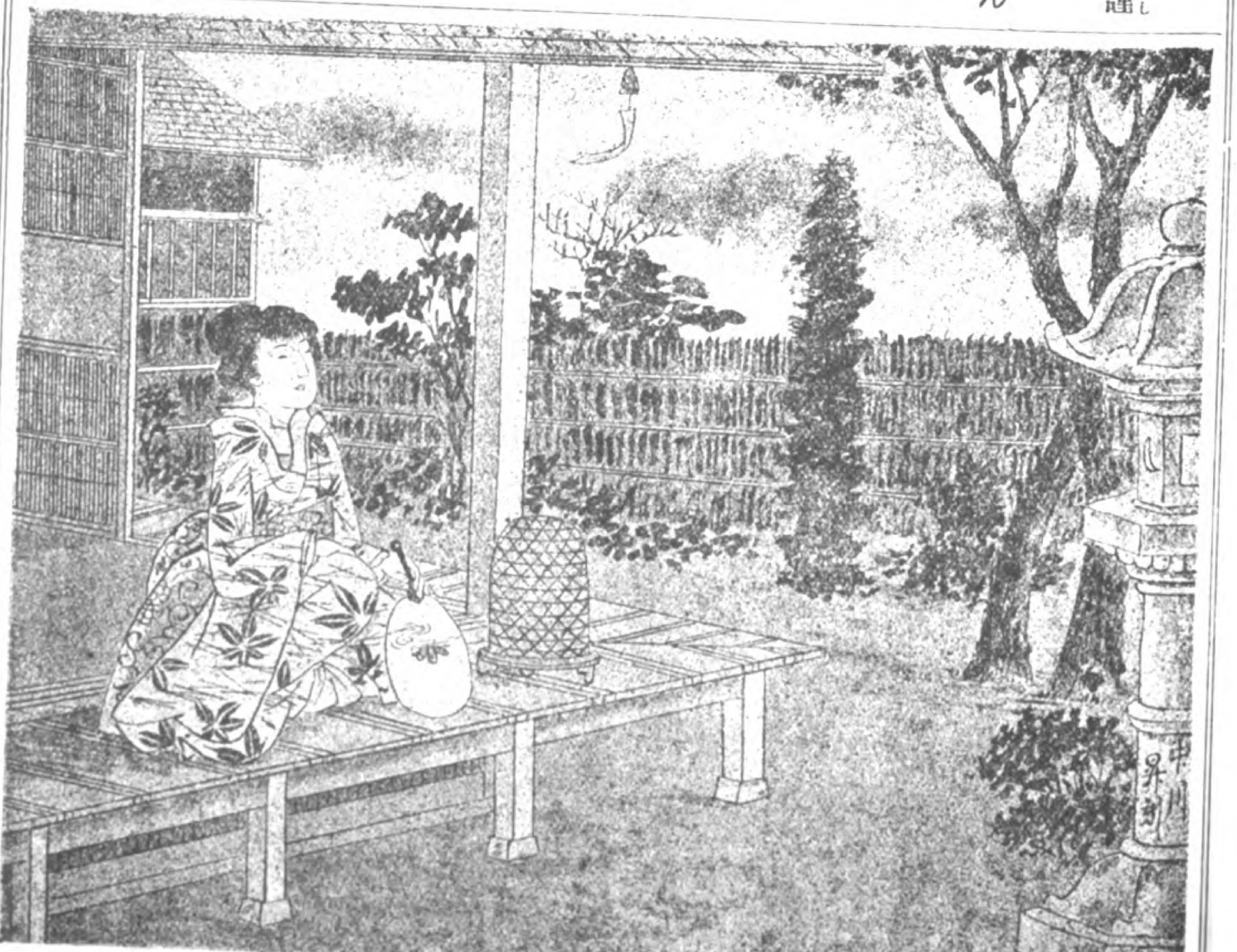
ヘイ旦那さん、御機嫌さまで、お構まい申しませんで。

御主人か、ハイ、ハイ、お世話になるノウ。

○さすがに双紙　第八篇　美妙斎主人

何處か、處は田舍びた里で、遠近には藁塚なども見え、田には稲があるかどうだか、其邊は分解りませんが、何しろ一寸函根の邊に似た土地です。頃は秋かも知れません、四方の緑の木陰から折々木犀が香るやうで、そして栗の殼、言はゞ栗殼が落敷ッて居ます。

香る方を望めば、なるほど木犀の花房が……思運らせば意中の人が其花を愛した其日も浮んで來て……見れば、わら恐悦、花房が……實に其木犀の花の影に未來の夫の花房が……いつ嫌疑が解たのでしやう……莞爾と哂ッて立て居ます。「おや、貴君、まァ」。うれしさに時子は言語も自由には出ません。走寄うとし



ても……ぢれつたい……足が縮むやうで、誰やら後から引張るやうで……そして、驚きました、だれか引止めると思つて後方を振返れば、だうでしやう、案外な、栗殼が、虚もかざりも無い栗殼鋭之助が、死んだと思つた栗殼鋭之助が目を細くして時子の帯の端を一心に掴んで居ます。「われェ」、一聲立てやうとしても咽喉が引付くやうです。一心に振拂へば帯は見る〱解けて來て……困ります、花房禮二は黙然としてたゞ此方を見て居ます。

不思議です、どうしても此場の躰裁はなんだか變です。が、平常のさかしさに似合ハず時子は酷くも怪みません。その内に栗殼はいつかまた時子の帯を放して居て、そして花房は笑つてそれに斯う云つて居ます。

「あゝ滊車が出るンだな」。

それと一途に滊笛が一聲。おどろいて氣が注けば、はて口惜しい、これは假寐の夢でした。

木の葉をさそふ夕嵐、暗を弄ぶ庭の落葉松。それを洩れて名殘を引くのは夢に滊笛と聞えた近い處の製造所の蒸氣の笛です。

眼は覺めて分別の眼は殆眠出したやうです。どうも夢とは思はれません、その現然として居たことは。けれど道理から之を云へば夢に相違はありません。夢に相違は無いとして、その夢が……はて其處が凡夫のはかなさ……何か仔細ありさうです。

その滊笛、それは停車場に近い處に縁のある假の幻で、而も思へば夢の田舍は神奈川……栗殼に故里といふ……神奈川らしいです。其處に居た花房、其處に居た栗殼……して見と栗殼は……もし實際死んで居ないのなら逃て其處へ行たのかも知れません。死んだか、死なゝかつたか、證據はありません。が、一度それを疑つて死んだのではあるまいかと思つた事もある、その事が腦へあれな印象を留めて居たのでしやう、それが夢となつて現れました。

もしや栗殼が逃げて故里にでも居るのか知らん。夢を頼む心はありません。が、それでも頼むやうでも有ります。その工合、筆では述盡くせません。「神奈川」……この言語が覺めた後の時子の心に大きな根を張つて居ます。

栗殼の姿さへ死なずに活きて居るとの證據が立てば花房は無論無罪放免の身となりましやう。ですから、栗殼、實にその姿を見付け出したいものです、もし活きて居るなら。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「活きて居るかも知れない」。「かも知れない」の未定の語は此處で「に違無い」の決斷の意味をもッて居ます。

妙なものです、人間の心は。一度思詰めればもろ〳〵の理屈がすべて都合よくなります。常は雄々しい心で夢などを氣にかけさうも無かッた人が今は却ッて疑ひながらそれで猶氣に掛けて居るとは實に奇怪なもので、まことは其實左樣なのですから言はゞまた奇怪でも無いのです。

たまりかねて遂に父親にその趣をもらさず話して聞かせますと是さへも全じやうに強く感動されましたので、そこでいよ〳〵時子の胸も相手を得て固まッて仕舞ひました。はやその結ぼれた迷の霧を吹拂ふ風もありません。部屋の洋燈天地の闇をば追退けては居ても八造のこの闇をば追退けられません。戸外の風、空の雲をば吹散らして居ても下界のこの雲をば更に吹散らす躰もありません。

「全躰花房さんが左樣酷いことを爲るといふことは受取れない話でもあるからなア」父親が咳きました。

「さうですよ」、はて勢のいゝ挨拶、「阿父さん……いッそ神奈川の邊を探してもしましたら」……

と言掛けるほどの熱心ですが、また小兒らしい事をと怪しまれるかと思ッて急に口をつぐみました。

「だッて雲を目的ちやアないか」。

「さうですねエ」。

「探して見付かりやア結搆だけれども」……

やはり父親にも未練はありました。是からはやはり今までの話の復習です。次日になればなるほど心配は增して來たといふのは新聞紙に花房の一件が終に出たことで、去かも今日ばかりは遠近の新聞紙を色々買集めて讀んで見ましたが兎に角花房が有罪らしく書いてあります。

が、神奈川といふ思想はいくたびも休まず迷ッて出て苦勞の幹に枝葉を添へます。「どうしたら好からう、雲を目的でも尋ねてもられふか知らむ」、言出さずには居ますが、二人が二人ながら父子同じ考です。

佳傳

○村好娘、ドラの一生　(其二)　　みどり譯

アルラン曰く、お前はあの女と惡計をして、其の樣なことを言ふのであらう、併かし私は私の爲すべき義務をしなければならぬ、私の言ふとは掟である、お前は殊更に之を破つた、ヨ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

シ私は小供を取らう、然しお前は家に入れられぬ、最早復び私を見るな」と云ひつゝ老人は去れり、小供は聲を高く叫び、又遁れ樣として騷いだ、花輪は足元に落ちた。ドラは首を曲げて己が伯父の許に來た日より今日迄の事を追懷し、再び跪て、密かに泣きだした、苅る人は苅りし、日は暮れし、四方は暗くなつた。それよりドラはメレーの家に至り、敷居の上に起て一語も無い、メレーは其の兒のドラと俱に在らざりしを見て、伯父の心は和らぎしと想ひ、先づ神が寡婦を助けたるを神に感謝した。ドラは言ひし、伯父は彼の子を取りぬ、併しメレーよ是よりは、私れ一所に居つて働きたい、伯父は再び私を見ないと云ふた。メレーは驚き答て斯くてはならん、お前が私の難義をお前の身の上に取つてはならぬ、又今考へるに老人が小供を養ふては、定めて小供を頑癖にして、其の母をも誘る樣に育てるであらう。然らばあなたと私と一所に往て小供を連れて來やう、あなたを再び家に入れる樣に願はう、若し許されぬならば仕方がない、其時こそ一ツに住ふて、ウイリヤムのアノ子が大きくなつて、我等を養ひ得るまで働らかう、左樣にして互に接吻して彼の借地に達した。戶の錠前は離れて少し隙がある、二人の者は其の隙間より中の容子を窺へば、小供は老人の膝に抱かれ、老人は二ツの手で作りし穴の中に小供を入れ、之を愛するの樣を爲して居る、小供は餘念なく、アルランの懷に抱かれて居るが、何か獨語つゝ在ものゝ如し。二人は這入る、小供は母親を見て駈寄らんとせしが、アルランは留めた。マリーの云ふには、父よ、若し私があなたを父と呼ぶことが出きるなれば父よ、私があなたの所に來たのは、ウイリヤムの爲に、或はウイリヤムの子の爲に、願には參りません、私はあなたの愛する姪の爲に參りました、彼れを再び家に入れて下さい、彼は眞にあなたを愛して居る。夫ウイリヤムの死せし時は、知る人々と和らいで死しぬ、夫は申しました、私と婚姻した事を傷まない、眞に妾は順從なる妻でありました、故に私を愛しました。併し夫は申します、私の父を怒らせたのは、實に惡かつた、神よ、何うぞ父を惠めよ、私が箇程までに難儀でありしことを、父に知らせるな。斯くて夫は顏を背けて、此の世を過ぎ去つた。只憐むべきは殘りし此の妾である。父よ、何うぞ其の子を私に下さい、あなたが其の子を育てゝ、遂には父を思ひ出すこともなきさみしきものとなされては困る。其の代り、あなたを深愛するドラを再び入れて、前の通りにして下さい、左樣にメレーは申しました。ドラは、メレ

ーの側に在りて、顔を覆ひて嗚咽し、部屋の中は誠に静かであつた。其の時、老人は俄に泣き出し、悪るかりしハ我なりき、予は悪るかりし、子供等よ、予は愛せる我子を殺したり我子を殺せるハ我身なり、神よ何うぞ我を許せ、來りて我に接吻せよ、小供等よ、と云ひしかば、其の姪なるドラも、嫁なるメリーも、老人の首にすがりつき、數多たび接吻せり。老人は心の苦みを以て泣き出し、心の愛ハ幾百倍にも現はれぬ、殆んど三時の間は、ウイリヤムの事を考へながら、ウイリヤムの子供の顔に涙を注いだ。斯くして此の四人は一ツの家に一所に住うて居た。年は段々過るうち、彼メレーは復他の人に歸がぬ。左れどドラは、遂に歸がずして死せり。（完）

今申した所のドラは實に智恵もない誠にタヾの女である其の稚ならしき寧ろ單純なる誠に飾り氣の無き清き愛は實に今日多くの人の及ばない立派のものである願ふに人間は單純より出でゝ複雜の旅をなし遂に又大なる單純に入るものです初めには調和し中には混雜し終りに大なる單純の調和に入るものである我は幼なき時は心の清きものであるが少しく長ずるに從て邪しまの考も起る然れども後には清き立派なる人となる何を見ても皆其の通りであります何うぞあなた方も理想に依て彼の後に來る者の終りを見る如く矢張單純なる大元に立歸ッて考て見ればわかる今聊かでも進み居る所の我よりも一層美くしく立派なるものが元はあつたのです。

一人あり曰く余は怒ることを好まず怒は心の奴の如し下賤極まると、傍らに人あり之を嘲ッて曰く君の如く常に怒つて何んぞ知らざるの爲をするや君は是れ虚喝者なりと、彼怒つて曰く何んぞ余を非る如此き若し言語を再たびせば敢て置かじ、傍人いよ〳〵罵る、彼遂に怒つて蹶然將に之を擊んとす、傍人啞然として曰く此れ怒るにあらずや、怒るもの又啞然として笑ッて曰く如此く怒るに似て怒らざる也、笑ふもの曰く即ち是れ君を虚喝者と云ふ所以也、彼再び怒ッて遂に之を擊つて曰く余が怒るの正銘なる如此し。

寄書

○文苑　鈴木弘恭大人撰

月前薄

月みむとこよひも人にとはれけりまねくを花ぞ心ありける　田邊あさ子

同

いつよりもこよひの月のさやけきをさてこそ花人まねくらめ　渡邊　花子

同

手折こしを花か袖の露の上にやどるもゆかしあきのよの月　丹羽　花子

同

さよふけて月すみわたる庭のおもに一本すゝきたれまねくらん　池田　孝子

同

てりわたる月もさやけき秋のよハまねくを花の袖もかくれず　三橋　久子

萩

しら露のおきうふ野へにはぎの花こぼれながらに咲ぞゆかしき　吉田千代子

女郎花

立よらハなびきやすらん女郎花つゆになまめく秋のゆふぐれ　保田ろく子

同

をみなへし名ハあだなれど秋風に亂れもやらぬ花のゆかしさ　朝山とよ子

蘭

八千草のさかりあらそふ秋なれど蘭にまされる花やなからん　岡池かず子

庭草花

我やどの庭のくさ花さきみだれにしきといはん外なかりけり　安藤たね子

同

秋くれば千々の草花まづかやの庭もせきまでさきそめにけり　千住ちよ子

野草花

家ゐしてのどかに見んと思ふまで野べの千草花さきにけり　久野まけ子

同

いろもかもふかき秋とぞ見えにける露けき野邊に咲ける百草　高原うめ子

夕萩

我やどハいとゞさびしさまさりけり萩のはさわぐ秋のゆふ風　多湖かず子

惜秋

長月をながしと思ひしなほざりハ暮ゆくけふぞ更に知らるゝ　土屋　峰子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新報　（此欄内自由に轉載を許す）

○離婚請求の判決

神奈川縣高座郡倉見村三十九番地永田元吉と同人の妻との間に起る訴訟は、去九日横濱始審裁判所に於て、寺尾判事より左の通り判決されたり、

原告永野は（ママ）る代言人皆川成濟より被告永野元吉代言人森大次郎に對する離婚請求事件は原告は昨年十一月中被告に嫁したるに被告は陰萎病に付き離婚を求むと云ふにあり。

被告は結婚の時は左る病なかりしに其後に至り此病に罹りたるも今日は已に全癒したり且陰萎病に非ず遺精病なりと云ふにあり依て雙方の証據書類及び証人たる醫師の陳述を聽き證明すると左の如し。

第一本訴の事實は雙方の證據を見るに（種々の説明あるも中畧す）到底被告は結婚前より陰萎病にして生殖器の効用を失したるものなるに之を原告に明示せずして結婚し且其後今日迄も全治せざるものと認む。

第二已に然る上は元來婚姻の目的は單に肉躰の快樂に非ざれども其の主たる目的は人類の繼續にあるものにして且生殖器の不具なるを原告に明示せざりしものなれば結婚合意の點より見るも承諾の不完全なる所ありとす故に婚姻の性質上より云ふも亦承諾不完全の點より見るも原告が婚姻を取消さんとの請求は相當なりとす依て被告は速かに原告請求の通り離婚を爲すべしと判決す。

○京都愛友女子手藝學校　大久保利兵衛、河合爲二郎、奥村吉之助、岡本宇野四氏が發起人となりて創設せられたる同校は諸禮式、編物、挿花、レース、家事、唱歌、縫織、學術、算術等專ら實用に適する學科を教授するの目的なりと云ふ。

○千葉産婆學校　當縣下には相當の學科を修めし産婆に乏しく我人共に常に憂ひ居りしが當地居住産婆高梨ミツ子は深く之を憂ひ其の賛成に熱心し兩三年以來有志の婦女を募り産婆學を教授し居たりしが此度更に私立千葉産婆學校の設置を縣廳へ願ひ出でしに此の程許可になりしを以て目下千葉町郡役所傍に校舎を新築中なり而して同校の卒業證書を所持する者は別段試驗を要せず産婆營業を許可する旨縣廳より達せられたり由て同女は益々踏つて産婆の發成に盡力せんとの覺悟なりと云ふ。（大日本私立婦人衛生會員羽山かね子報）

○學校及び協會發報　積徳學校は今度築地三丁目本願寺内に西本願寺派の有志者に依て設立せられ明二十二日開校する由。亦京都の眞宗門内に於ては只一の關西女學會あるのみなれば何卒完全なる女學校を設立せんとの計畫ある由。青森婦人英學會は米國婦人コツケンタルフ氏を教師とし同地鍛冶町なる美以美教會中に設立せられたり。岐阜婦人會は本月一日を以て開會式を執行したるが去る三日を以て授業を始めたり。名古屋清流女學校は去る三日を以て假開校式を執行せられ同校總理レーエス、ロンダ氏の演說同校教師三枝仙子の祝辭同校主三枝光太郎氏の生徒への告辭等ありて頗る盛會なりしと云ふ。

外報　（此欄内自由に轉載を許す）

○英國皇族の信仰　此頃ろ英國倫敦ヨ於ては皇女クリスチアンが舊教に改宗したりや否やの評判隨分に喧しきよし之に付て同國のレデー雜誌が云ふ所ろに由れば女皇ビクトリア陛下は寬大なる信女にましまし本國に於ては常ヨ監督教會ヨ臨みスカツトランドヨ行ては亦た其國教の會堂キルクヨ臨まれ毫も區別遊ばされざる如し、皇太妃は惣て儀式を好ませられ其の信仰は左程に舊派に屬せざれども儀式の好みに付ては全くリチウアル風なり、獨逸の先后ビクトリアは强き監督教會信者なり、又彼の皇女クリスチアンは强き新教信徒にして國教ヨ熱信し決して舊教ヨ傾き玉ふような事なし、同じく皇女ルイスは信仰宏量にして自由ヨましします、又皇女ビートライスは固き監督教會員なり云々。

○渡邊常嬢　九月八日の米國ウーマンスジヨウナルに云く渡邊常嬢と云へる日本の婦人は日本の神戸よりして此頃ろノースフヒールドに到着したり追てチヤールトンカーレーヂに於て科學の撰科生たるべき筈なり同嬢は一千八百八十二年（七年前）神戸の女學校を卒業し其后は元と矢張りチヤールトン校の卒業生にして過る五年間神戸女學校の校長たるイー、エム、ブラフン嬢の助教となり居たる人なり熱信の基督信徒にして向后三年間勉學の上へ日本に歸らるべき見込なり。

●出版書目　先月中官報を以て廣告ありし書籍の中女學に關するものを擧ぐれば左の如し。

風琴洋琴メトード初編	一冊	著作者 發行者	西岡長平 方田伊三郎	東京
家庭唱歌二集	一冊	編輯兼發行者	岡村增太郎	東京
政黨紀念新日本の娘艶舌	一冊	著作者 發行者	久永廉三 大淵濤	大坂
女文章あや錦	一冊	著作者 發行者	平山政濟 佐々木慶助	京都
修身兒訓	一冊	著作兼發行者	小林新吉	東京
近世孝子傳	一冊	編輯兼發行者	横山泰次郎	大坂
月琴提琴清樂の栞續篇	一帖	著作者 發行者	岡本純 井ノ口松之助	東京

小供談

本號餘白乏しき爲め不得止此の談を除く併し次號には必ず面白き談話を載せますれば切に御容赦を願ひ升。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

萬年青共晉會

縱覽無料 賣買隨意

例年の通り春夏培養成就を期し本月二十一日より二十七日迄晴雨とも弊舍において萬年青共晉會開場いたし候間四方の雅君枉車御來觀之程希望仕候也

明治二十一年十月

東京根岸九十三番地
肴舍 篠常五郎

婦人獨逸語研究會

本會ハ獨逸語並裁縫手細工又音樂ヲモ敎授シ又毎月育兒家政敎育等婦人ニ有益ナル講説ヲナス敎師ハ獨逸婦人數名ナリ入會御望ノ方ハ左ノ處ヘ御申込アルベシ但規則書ハ御申越次第送呈ス

富士見町二丁目二番地小松原○本郷弓町二丁目廿番地丹波○市ケ谷加賀町十番地柴田

●文明之母●

毎月十五日發兌○定價九錢
府外は外ュ郵税一錢○見本
一錢切手十枚○半年分五十
二錢○一年分一圓

諸姉妹御渇望の文明之母第一號愈今月十五日に發兌になります目次の重もなるものは左の通り

社説 發行の趣旨 **論説** 文明の母に父たるべきものは誰ぞ（中村秋香）家政敎育論（中川重麗）**家政** 家屋構造法（田村勝貝）**文藝** 方丈記講義（太田忠恕）不思議の話（ゾン生）露二十首（美妙齋主人）**小説** 劣夫傑女譚（山縣悌三郎譯）水仙花（鐵笛將軍新作）**批評** 女子敎育論○交際論○今世ひめ鑑 **雜錄** アルバート侯の夫人○婦人服裝討議○日本之女學記者へ○ヒルモン宗徒 **彙報** 件數●

本誌の價は實の價で一毛でも減きません御承知下さい

發行所 深川區諸町十三番地 生文社
大賣捌 本郷元富士町二番地 盛春堂

忘れました○○○○○○○○○○○○本誌には一等金五圓二等金二圓三等本誌一年分の（懸賞題）が載て居ます

附音挿圖 和譯英字彙

世上に高評を博せし英和辭書二千部限特別廉價廣告

アーサーロイド氏序○杉浦重剛君校閲○井上十吉君校閲○由布武三郎君校訂○島田豐先生纂譯

○製本最上洋裝美製總革金文字入縱五寸三分横一寸八分全壹冊○段詰一ページ二列百段詰○紙數一千ページ餘○語數八萬餘言○插圖七百餘圖○用紙舶來上等薄肉紙を用ふ

●特別廉價金壹圓八十五錢●定價金二圓廿錢○部數二千部限特別廉價○申込期限十月卅日但し送本費全國一般金十五錢○見本は郵劵二錢御投與あらば呈す滿數實價に復す○製本既ょ成功す金圓受領の順序にて即日送本す●

●本書は世上に意外の高評を得本年一月出版以後未だ幾ならずして五千部を賣盡し尚陸續御注文不絶之に依て弊店今般愛顧諸君の御便利を計り一層勉強致右の特別廉價を以て發賣す乞ふ此際陸續御購求あれ

發行所 東京日本橋區通一丁目十九番地 書林 大倉孫兵衛

遞信省認可

賣出し廣告

一來ル廿一日ヨリ三日間冬物賣始仕候間多少ニ不拘御用向被仰付度奉願上候以上

吳服
古着

牛込區市ケ谷田町
あまざけや
福永儀八

十月廿一日廿二日廿三日 麁景進呈

但シ雨天順延

大勉強

吳服太物 冬物賣出シ廣告

當時ハ何事モ勉強ノ世之中ト相成候故本年ヨリハ弊店ニ於テモ非常ノ大奮發仕品質幅尺並ニ染色等注意ノ上ニモ注意仕各々樣ノ必ス御意ニ滿候樣純良ノ品ノミヲ選擇仕リ價ハ御目ニ立候樣極々廉價ヲ旨トシ來ル十月廿一日ヨリ廿三日迄三日間冬物賣出仕粗景等モ例年ヨリハ一層注意仕候間御懇意樣方御誘ヒ合サレ當日ハ勿論平素モ賑々敷御光來御用向被仰付被下度伏テ奉願上候以上

十月廿一日廿二日廿三日 麁景呈上

神田佐柄木町
大野屋

發兌					
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢　郵税。一錢　（但府內無郵税）

十册。四十八錢郵税。十錢　（同前）

半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢

一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐる場合に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行　一回　（廿七字詰）　前金拾錢

同　三回以上　一割引

同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町一丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○橫濱住吉町角田星良○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入[illegible]集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大阪備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町協進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎西濱町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年十月十八日印刷
明治二十一年十月二十日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

賣出し廣告

一來ル廿一日ヨリ三日間冬物賣始仕候間多少ニ不拘御用向被仰付度奉願上候以上

牛込區市ケ谷田町
あまざけや
呉服 古着
福永儀八

十月 廿一日 廿二日 廿三日 麁景進呈

但シ雨天順延

大勉強

呉服 太物 冬物賣出シ廣告

當時ハ何事モ勉強ノ世ノ中ト相成候本年仕入品ハ幅尺ハ並ニ染色等ニ於テモ注意シ殊ニ上等純良ノ品々ヲ撰擇仕必ズ御氣ニ入リ候様大ニ奮發仕候間何卒御用向御引立ノ程奉願上候

十月廿一日ヨリ廿三日迄三日間冬物賣出仕候間御用向被仰付度伏テ奉懇願上候以上

神田佐柄木町
大野屋

麁景呈上

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町盛々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町園々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新乘物町良明堂○同京橋區木挽町四丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文泰堂○横濱住吉町角田某良○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目月の出屋○京都四條通小橋西へ入沼米光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンホード○大阪備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町二十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎西濱町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石泰堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

發兌					
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價		
一册。五錢	郵税。一錢	(但府內無郵税)
十册。四十八錢	郵税。十錢	(同前)
半年分	一圓十七錢	府外は 一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を爲する物は右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上に 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は本社の議の上無代價にて引受くべし女學に關係ある書籍は一部寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

明治二十一年十月十八日印刷
明治二十一年十月二十日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐